

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】
～熊野那智大社にいちごを奉納～

令和8年1月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 環境保全型農業栽培技術研修会を開催	
2. 最先端技術の現場で農業を考える	
II 那賀振興局	2-3
1. 県オリジナル品種「紀州てまり」栽培研修会を開催	
2. 岩出市生活研究グループ協議会が市内中学校2校で郷土食体験を実施	
3. 紀の川市生活研究グループ連絡協議会が20周年記念講演会を開催	
III 伊都振興局	4
1. 橋本市内の小学校でみそづくり伝承活動を実施	
2. 「匠の技 伝道師」による富有柿せん定研修会を開催	
IV 有田振興局	5
1. 有田地方4Hクラブ意見発表練習会を開催	
V 日高振興局	6
1. 日高果樹技術者協議会が令和8年産うめ着蕾状況調査を実施	
2. 令和7年度日高地方青年農業者会議を開催	
VI 西牟婁振興局	7
1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会がうめの出前授業を実施	
2. イタドリ・野菜栽培講習会を開催	
VII 東牟婁振興局	8
1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～熊野那智大社にいちごを奉納～	
2. じゃばらのせん定講習会を開催	
VIII 経営支援課	9-10
1. 県農業士会連絡協議会が大阪府への県外研修を実施	
2. 令和7年度近畿地域農業青年会議が開催される	
3. 令和7年度農業士・林業士・漁業士感謝状贈呈式・認定式を実施	

I 海草振興局

1. 環境保全型農業栽培技術研修会を開催

県では、環境保全型農業を推進することを目的に、毎年エコ農業を実践している生産者の園地を「エコ農業実践モデル園」に設定し、先進的な栽培方法や創意工夫をこらした取組について展示活動を行っている。

1月16日、海南市に設定した中西康介氏のモデル園で現地研修会を開催し、県内各地から28名の参加があった。中西氏は節減対象農薬と化学肥料を50%以下に減らした特別栽培農産物としてミニトマトを生産し、JAわかやまながみね地域本部のブランドである美味房（おいしんぼう）として販売している。現地研修会では、中西氏からコナジラミ対策のための天敵利用など環境保全型農業における栽培技術について説明があった。その後、ながみね地域本部に移動して行った意見交換会では、環境保全型農業に関する技術や展望について参加者同士で意見を交わした。

研修会を通して、参加者からは病害虫や雑草管理に苦戦しているとの声が多く聞かれた。



現地研修会

2. 最先端技術の現場で農業を考える

和海地方青年農業経営者協議会（会長：山本達弥氏）は、1月27日にAIやICT技術を活用した新たな栽培技術や生産管理技術を研究している大阪公立大学の植物工場研究センターを訪ねた。植物工場では光、温度、湿度、二酸化炭素濃度、養分、水分、気流等の植物の生育環境についての研究や最新の農作業ロボットの開発や高度制御農業などを行っている。

近年話題となっている野菜の水耕栽培と水産養殖を組み合わせた「アクアポニックス」施設において、養殖魚（チョウザメ・ドジョウ等）の排泄物を肥料として野菜（レタス・ワサビ等）に吸収させ水や無機成分を循環利用する次世代農業について担当者から施設の説明と講義を受け、その後活発な質疑応答により知識向上を図った。

会員からは全国でのアクアポニックスの普及状況や栽培にかかる費用と損益分岐点についての質問や、労働力の管理により一人当たりの植物の生産量を最大かつ最適化する生産管理手法などについて意見交換を行った。

近年の異常気象や労働力不足により農業経営は年々難しくなる中で最新技術をうまく取り入れた農業の未来の姿が見えたひとときであった。



アクアポニックスの見学



リーフレタスの栽培

Ⅱ 那賀振興局

1. 県オリジナル品種「紀州てまり」栽培研修会を開催

1月20日、農業水産振興課はかき・もも研究所において県オリジナル品種「紀州てまり」の普及と栽培技術の高位平準化を目的に、管内の紀州てまり栽培届出者や新規就農者を対象とした栽培技術研修会を開催した。かき・もも研究所の熊本主任研究員と大谷主任研究員を講師に迎え、約50名の生産者が参加した。

研修では、「紀州てまり」で特に問題となっている灰色カビ病の防除対策や栽培上の注意点について解説があった。続いてせん定の実演が行われ、樹勢維持や着果管理のポイント、せん定のタイミング・切り方など実践的な技術が示された。参加者からは「ヘタ枯れ対策」や「チュウゴクアミガサハゴロモへの対応」などの質問が寄せられ、生産現場での関心の高さがうかがえた。今後も、研修や情報提供を通じて、「紀州てまり」の安定生産に向け生産者の栽培技術が向上するよう支援していく。



研修会の様子

2. 岩出市生活研究グループ協議会が市内中学校 2 校で郷土食体験を実施

岩出市生活研究グループ協議会（会長：小崎育子氏）は、12月10・11日に岩出中学校の2年生214名、1月22・23日に岩出第二中学校の2年生213名を対象に、地域に伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごま和え」の調理実習を行った。

講師は、岩出市生活研究グループ協議会の役員が務め、延べ50名の会員が指導に参加した。最初に講師から、食材は会員が栽培・加工したものをを用いていること、また、お雑煮に入れる野菜は「家族円満に、一年を通じて何事も丸く収まりますように」という意味合いを込めて、全て丸く切るとの説明があった。その後、生徒は会員の指導を受けながら調理を行った。試食の際に、生徒達から「お餅が柔らかくて美味しかった」、「お味噌の風味がいつもと違う」、「ごま和えは苦みが少なく食べやすい」といった感想がきかれた。



郷土食について説明



調理実習

3. 紀の川市生活研究グループ連絡協議会が 20 周年記念講演会を開催

紀の川市生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）は、1月29日に紀の川市打田生涯学習センターにおいて、20周年記念事業講演会を開催し、会員や関係者等55名が参加した。

講師に株式会社信濃路 代表取締役会長 西平都紀子氏を招き、「和敬喜心を胸に」をテーマに講演いただいた。西平氏から「和敬喜心（和を大切にし、人を敬い、人の喜びを自分の喜びと思う。その想いを常に心に。）」という経営理念に至った経緯を、（株）信濃路の沿革や自身の経験談を交えて紹介された。また、職親プロジェクトやよさこい祭りの立ち上げなど、地域貢献についても触れられ、人と社会の役に立てる企業として活動すると締めくくられた。会員からは、「今日の講演の学びを会活動で活かしていきたい」と感想があがった。



講演会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 橋本市内の小学校でみそづくり伝承活動を実施

昔から地域で作られている米みそづくりを後世に伝承し、食育の推進を図るため、1月21日～23日の3日間、橋本小学校の4年生35名を対象に、みそづくり体験を実施した。

橋本市生活研究グループ連絡協議会員が講師となり、1日目は、みそづくりに必要な材料、手順などの説明や、みそのベースとなる米麴の作成を行った。2日目は、米麴の生成状況の確認と大豆の水洗い、浸漬を行った。最終日は、水に漬けた大豆を煮て、挽いたものを米麴と合わせ、団子状に丸めて容器に詰める仕込みを行い、熟成までの管理方法や期間について説明を行った。

児童達から「米麴は変わったにおいがする」、「食べるのが楽しみ」などの感想が上がり、完成を心待ちにしていた。



講師によるみその説明



米麴の確認

2. 「匠の技 伝道師」による富有柿せん定研修会を開催

九度山町の中谷裕一氏は、富有柿の高糖度栽培技術に関する卓越した技術を持ち、令和3年度に和歌山県知事から「匠の技 伝道師」に認定されている。

農業水産振興課では1月19日に九度山町のかき園において、中谷氏が持っている優れた技術を継承するため、研修会を開催し、15名の生産者が出席した。

中谷氏から、「まず、主枝の先端を決める」、「主枝、垂主枝、側枝の配置は、二等辺三角形にする」等の基本的な技術の講義の後、匠の独自の技術について実演を交えながら講義が行われた。

参加した農家からは「近年の日焼けに対応した徒長枝の取り扱い」についての質問があり、中谷氏から経験に基づいた回答があった。



研修会の様子

IV 有田振興局

1. 有田地方4Hクラブ意見発表練習会を開催

1月19日に有田振興局において有田地方4Hクラブ意見発表練習会を開催した。令和7年度近畿地域農業青年会議に登壇予定の有田地方4Hクラブの辻岡誠之さんが「企業からの依頼 有田川町4Hクラブの挑戦」、令和7年度和歌山県青年農業者会議に登壇予定の南広4Hクラブの久保田裕貴さんが「選ばれる農業へ」と題した意見発表を行った。発表後、聴講したクラブ員や農業水産振興課職員らと共に、より分かりやすく、よりメッセージ性の強い意見発表を目指し、発表内容や方法の改善・検討を行い、それぞれ出場する大会の健闘を祈念した。



クラブ員による発表の様子

V 日高振興局

1. 日高果樹技術者協議会が令和8年産うめ着蕾状況調査を実施

農業水産振興課、JAわかやま紀州地域本部等で構成する日高果樹技術者協議会（会長：柏木雄人）は1月13日、15日、16日に令和8年産のうめ着蕾状況調査を実施した。

管内うめ園115カ所を対象として、関係者のべ31名が100節当たり着蕾数を調査した結果、主産地（みなべ町・印南町）では45.1個で、過去10年平均比77%と少ない傾向であった。

このため、花数確保のための対策として、ノコメトガリキリガ（通称：ハナムシ）の防除の徹底、園地への授粉用品種の枝挿しによる受粉効率の向上等について、報道機関等を通して周知した。

なお、今後の気象条件、病害虫の発生、第二次生理落果程度、果実肥大状況等によって作柄は変動することから、関係機関と情報を共有しながら今後の動向を注視していく。



調査樹の着蕾数を計数する協議会会員

2. 令和7年度日高地方青年農業者会議を開催

1月22日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：鈴木 溪氏）と日高振興局農林水産振興部が共催で、令和7年度日高地方青年農業者会議を開催し、関係者含め31名の出席があった。

本会議では、1月28日に開催される近畿地域青年農業者会議に出場する印南町4Hクラブと2月5日に開催される和歌山県青年農業者会議に出場する御坊市4Hクラブ連絡協議会及びみなべ梅郷クラブが、地域づくりのためのプロジェクト活動について発表した。

印南町4Hクラブが「4Hクラブで取り組むシカ対策」、御坊市4Hクラブ連絡協議会が「高校生と若手農家をつなぐ取り組み」、みなべ梅郷クラブが「ひょう被害梅からオリジナルスパイス開発」と題して発表を行った。

今年度も本会議では順位付けを行わず、普及指導協力委員をはじめとする関係者が、助言者として、発表内容に対する改善点などを伝えた。

発表者は本会議内容を参考にし、今後の会議に臨む。



活動内容を報告する発表者

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会がうめの出前授業を実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：岡本由美子氏）は1月29日に大阪府堺市立赤坂台小学校にて、和歌山県の梅のPRのための出前授業を実施し、会員13名および果樹園芸課・振興局の担当職員が出席した。

5年生61名（2クラス）を対象に「うめの1年」のお話と梅シロップ作り体験を行った。

部会員から梅の産地や主な品種、梅農家の1年の流れ、梅干しの機能性などについての説明を行い、生徒からの質問に回答した。生徒たちからは「1番高い梅干しは何円ですか？」や「1番酸っぱい梅干しはどんなのですか？」など、たくさんユニークな質問があった。

その後、各クラスに分かれ冷凍梅と氷砂糖を使った梅シロップ作り体験を行った。部会員は生徒たちが上手に梅シロップを作れるようにサポートした。

生徒たちから「楽しかった」、「家でも作ってみたい」との声があった。



うめの1年を紹介している様子

2. イタドリ・野菜栽培講習会を開催

1月27日、田辺市本宮行政局にて、イタドリ・野菜栽培講習会を開催した。本宮町内の農業者8名の出席があった。

当振興局では、普及指導計画「特産品を核とした山間部農業の振興」で、イタドリの栽培及び加工の推進と、販売先や加工業者の探索に加え、自然薯の導入推進にも取り組んでいる。これを踏まえ、生駒普及指導員より「イタドリ栽培と利活用～令和7年度アンケート結果を交えて～」と題し、農業者と宿泊業や飲食業者等から収集したアンケート結果をもとにイタドリの栽培方法、一次加工の優位性について説明した。

また、自然薯についても「西牟婁地域における自然薯生産・取組の紹介」として、栽培方法や当振興局で実施した収量品質調査の結果といった管内の生産実態について説明した。谷普及指導員からは、露地野菜の栽培講習として、最近人気が高まっているブロッコリーの栽培方法を解説した。

参加者の中には、イタドリを山採りや栽培されている方が複数名おり、自然薯ではないが大和芋や里芋などのいも類を栽培する農業者もいた。それぞれ意見交換がなされ、イタドリの一次加工に関心を寄せる農業者もみられた。

今後は、4月上旬にイタドリの一次加工研修会を同町内で実施する予定にしている。



普及指導員による講義

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】～熊野那智大社にいちごを奉納～

1月15日、那智勝浦町苺生産組合(会長:畑下由美氏)は、「いちごの日」(1月15日)にあわせいちご「まりひめ」を熊野那智大社に奉納し、豊作や農家の健康無事を祈願した。今年で11年目を迎えた。当日は生産者7名、JAわかやま2名、当課1名の計10名、同組合マスコットキャラクター「まりりん」が参列した。「まりひめ」5ケース(約5.4kg)を奉納し、熊野の神々のご神徳を授かる金幣の儀などに続き、畑下会長が玉串をささげた。生産者からは「来シーズンも素晴らしいいちごを作ることができるように願いを込めて奉納した」との声があった。



まりひめを奉納した組合員ら(那智勝浦町)

2. じゃばらのせん定講習会を開催

1月21日、北山振興株式会社は、北山村大沼でじゃばらのせん定技術向上のため講習会を開催し、北山振興株式会社職員2名、株式会社じゃばらいず北山職員2名、当課4名の計8名が参加した。

当課橘普及指導員から、かんきつ類のせん定や栽培方法の説明を行った。その後、同指導員と北山振興職員2名がじゃばらに適したせん定方法等を説明しながら、せん定を行った。参加者からは、「カンキツ幹腐病の被害のある枝のせん定方法について」などの質問があった。



じゃばらのせん定(北山村)

Ⅷ 経営支援課

1. 県農業士会連絡協議会が大阪府への県外研修を実施

1月22日～23日、和歌山県農業士会連絡協議会は大阪府への県外研修を実施し、13名が参加した。

初めに富田林市で海老芋を中心に「なにわ特産品」である千両なす、きゅうりを栽培している乾農園を訪れた。乾農園では、外国人技能実習生を採用しており、実習生の住居等の工夫や、近隣の農家と協力して新規就農者支援等を行っているとの説明を受けた。次に訪れた大阪市の西野農園は、ビルや住宅が建ち並ぶ市内中心部で葉物野菜やいちごを栽培しており、味にこだわり自園の前での直接販売を大事にしていた。

翌日は、高槻市でスプラウトを栽培している中野農園と泉佐野市で水なすを栽培している赤坂農園を訪れた。

栽培品目が異なる参加者も、勉強になる部分はたくさんあると話しており、充実した研修となった。



海老芋の調整作業を見学（乾農園）



水なす栽培の説明（赤坂農園）

2. 令和7年度近畿地域農業青年会議が開催される

1月28日、ホテルグランヴィア和歌山において令和7年度近畿地域農業青年会議が開催され、農業青年ら162名が参加した。この会議は近畿6府県の輪番により開催されるもので、今年度は和歌山県4Hクラブ連絡協議会（以下、和歌山県連）が当番県となり、近畿農業青年クラブ連絡協議会と共催で開催した。

会議では、プロジェクト発表及び農業青年意見発表が行われ、各府県連の代表者が自らの経営課題解決に関する発表や、経営発展に向けた決意等の発表を行い、和歌山県連の山下英都史会長が審査員を務めた。和歌山県連からは、プロジェクト発表を印南町4Hクラブの夏見亮佑氏、意見発表を有田川町4Hクラブの辻岡誠之氏が行った。発表した両者は惜しくも最優秀賞は逃したが、大勢の農業青年の前で発表する貴重な機会となった。

会議後には懇親会が行われ、和歌山県連のクラブ員が他府県連からの参加者と積極的に交流する姿がみられた。

会議準備では、クラブ員自ら装飾花の準備や飾り付けを行い、花産地である和歌山らしい華やかな会場となった。



クラブ員による会場の花の飾り付け



開会あいさつを行う山下会長

3. 令和7年度農業士・林業士・漁業士感謝状贈呈式・認定式を実施

1月30日に農業士・林業士・漁業士感謝状贈呈式及び認定式を実施し、長年にわたり活躍された方々の功績に敬意を表して、知事が一人一人に感謝状を贈呈した。

また、農林漁業各分野で、県農林水産業の地域リーダーとして活躍している農林漁業者を、農業士、林業士、漁業士として知事が認定した。

今年度の農業士の認定者数は指導農業士15名、地域農業士28名、青年農業士16名であり、認定者を代表して有田市の上野山隆仁氏が認定証を受け取った。

また、今年度で定年（65歳）を迎える指導農業者は21名であり、代表してみなべ町の岡田敦雄氏が感謝の言葉を述べた。

今年度の認定・解除により農業士認定数が701名となったが、地域の農業振興や新規就農者支援に取り組んで頂けるよう支援していく。



感謝状贈呈



記念撮影（指導農業士に認定された皆様）

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489